＜教育長だより 37 号　杁差岳朝日に映えて　令和７年７月２日＞

年中行事のこと

教育長　津野庄一郎

年中行事のこと二つ。一つは「夏越の祓」。下関では「夏越様」と言い、神道によらず気のある人々が「大蔵神社」拝殿にある茅の輪をくぐって、五穀豊穣、家内安全、無病息災を祈願します。神主様の「水無月の夏越の祓する人は千歳命のぶというなり」と唱える後について、８の字を描くようにゆっくりゆっくりと3回まわります。幼児は親に手を引かれ、子どもからお年寄りまで、みんな神妙な面持ちで一列につながるので少しおかしいくらいですが、この厳かな雰囲気が好きです。今年も６月 30 日の蒸し暑い夜、境内にある「天満宮」（学問の神様）と合わせてお参りさせていただきました。

もう一つは「七夕」。織姫と彦星の伝説がもとになっているらしいですが、日本では７月７日に細長い短冊に願いごとを書いて、笹の葉につるすという習慣があります。今はプラスチックの笹もありますが、やはり本物はさわやかな香りもあり心地よいです。放課後子ども教室「せきともクラブ」では、教育課スタッフが近くの竹林から笹を用意し、子どもたちが思い思いに自分の願いを紙に書き記します。パソコンでキーを打つデジタルの時代ですが、自分の思いを掘り起こし、短い言葉にまとめて書くという思考操作は、情報活用の力を身に付ける上でも有効です。子どもも親も、お互いの願いを知るなどして、天の川にそれを託す満ち足りたひと時を過ごしたいものです。

この他、夏になると「地蔵様祭り」や「神楽奉納」などの行事が続いている集落があります。少子高齢化で存続が危ぶまれている節もありますが、そこに人の住む限り大切にしたい日本の、関川村の伝統文化です。この村の個性、魅力をみんなで思い起こし、再発見して、未来へと受け継いでいきましょう。

＜【写真上】下関の大蔵神社拝殿の茅の輪　【写真下】せきともクラブの七夕づくり（１日）＞

※　前号のあゆ放流の日は、正しくは６月 25 日でした。訂正いたします。